北区の部屋だより

2025年 12月号　第196号

刊行物登録番号 6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　令和7年12月発行

北区こぼれ話 第196回

飛鳥山名物

「豆腐田楽」ってどんな味？！

江戸時代、飛鳥山の麓には多くの水茶屋がたち並んでおり簡単な飲食もできました。そのうちの一軒、弥兵衛が営んでいた水茶屋では団子や田楽、麺類、酒等が提供されていたようです（「旧滝野川村 戸部家文書」（文書番号 10―21））一体どんな味だったんでしょうね。そこで、江戸時代の料理本から少し当時の「味」を想像してみることにしました。

天明2年（1782）に刊行された『豆腐百珍』という本があります。100 種の豆腐料理の調理方法を解説している料理本で、どこの家庭でも料理する「尋常品」から特に優れた「絶品」まで、6種類に分類して紹介しており、当時のベストセラーとなりました。田楽はこの本で何品も紹介されているほどバリエーションの多い料理方法ですが、同書の一番最初に紹介されている尋常品も「木の芽田楽」です。水茶屋で作るのが大変な料理を出していたとも考えられないので、尋常品のこれを紹介することにします。

料理方法としては、大盤（大きな容器）に湯を入れ、その湯の中で豆腐を切り、串にさします。そして湯から出したらすぐに火にかけることが重要だそうです。江戸を中心に焼かずに湯で温めたものを振る舞う田楽も流行ったそうですが、一応、ここでの作り方は「火にかくる也（火にかけるなり）」とあります。そして、味噌には甘酒を入れて調整したようで「二分」（5分の1のことか）ほど味噌に擦りまぜるとよく、入れすぎると甘くなりすぎるので「却てよろしからず」だそうです。木の芽田楽ですので、当然「木の目（芽の誤植か）勿論なり」です。記されているのはこれだけで火加減や焼き時間などは何一つ書かれていないので、そこはご自身の判断で･･･ということなのでしょうか。

『豆腐百珍』　（国立国会図書館所蔵）

「短冊の 豆腐も売れる 花の山」。これは「誹風柳多留」162 編に収載されている江戸時代の川柳で、ここでいう花の山は飛鳥山です。飛鳥山では短冊型に切った豆腐、すなわち田楽もよく売れていたようで、ある種の名物になっていたのかも知れません。そうであれば、この料理法よりもっと工夫を凝らした田楽を出していたのかも知れませんが、そこは正直よくわかりません。

ただ、『豆腐百珍』に限らず、江戸時代は数多くの料理本が出版されています。こうした本を眺めつつ、外出を控えがちな寒い日に江戸時代の料理に挑戦してみるのも面白いかと思います。

【地域資料専門員　保垣　孝幸】

北区の部屋
今月の展示

陸軍造兵廠（そうへいしょう）と「赤レンガ図書館」

■展示期間　　11月28日（金）～12月28日（日）
■展示場所　　「北区の部屋」企画展示コーナー

「赤レンガ図書館」の愛称で親しまれている区立中央図書館ですが、図書館になる前は誰が所有し、どのように利用されていたのでしょうか。今回は、この建物を主に使用していた陸軍造兵廠の変遷（へんせん）とともに、「赤レンガ図書館」になるまでを紹介します。

イベント　開催のおしらせ

歴史講演会（2回連続講座）
「見えない水路を辿（たど）る～北区の暗渠（あんきょ）～」

「谷田橋」「姥が橋」、橋はあるのに川はどこ？
かつて区内に流れていた川や水路の痕跡を辿り、そこにあった生活に思いを馳せてみませんか。

【企画・運営】北区図書館活動区民の会

■日時　①入門編　　令和７年12月20日（土）
　　②応用編　　令和８年　2月21日（土）
　　全２回　　いずれも午後２時～４時
■対象　中学生以上で２回とも参加可能な方（応募者多数の場合、区内在住・在勤・在学の方優先）
■講師　暗渠マニアックス
　　髙山（たかやま）　英男（ひでお）氏・吉村（よしむら）　生（なま）氏
■会場　中央図書館３階ホール
■定員　40名（応募者多数の場合は抽選）
■締切　12月　２日（火）
■申込方法　往復はがき（記入例参照）または申込フォーム（下記二次元コード）で申し込み
※障がいのある方で付添いを必要としている方は１名のみ可（申込の際にその旨ご記入ください）
※視覚障害のある方は電話申込可
※聴覚障害のある方はファクス申込可（自宅にファクスがある方のみ。返信もファクスのため）
※会場にはヒアリングループ補聴援助システムが設置されています。

お申し込みはこちら

Hearing Loop　耳マーク

申込・問合先
〒114-0033　北区十条台1-2-5
北区立中央図書館図書係
TEL5993-1125　FAX5993-1044

親子で探検！　赤レンガのひみつ
中央図書館ナイトツアー

誰もいなくなった夜の図書館を探検しちゃおう！
ワクワク、ドキドキ。秘密がいっぱい。
何に出会うかは、来てからのお楽しみ！

【企画・運営】北区図書館活動区民の会

■日時　令和８年１月11日（日）
　　午後４時45分～７時
■対象　区内在住の小学３年生～６年生とその保護者
　　（６年生優先・保護者同伴必須）
■会場　中央図書館　３階ホール
■定員　１５組（抽選）
　　（必ず小学生１名・保護者１名の２人１組でお申し込みください。）
■申込　12月11日（木）までに下記申込フォームで申し込みください。

お申し込みはこちら

★はがき記入例★

【返信面表面】	【往信面裏面】
申し込む方の郵便番号	講座名
住所	郵便番号・住所
氏名	氏名（ふりがな）
	年齢・電話番号
	その他必要事項

北区の部屋だより

2026年 1月　第197号

刊行物登録番号 6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　令和８年１月発行

北区こぼれ話 第197回

桐ケ丘小学校に空いた穴の正体とは！？

突然小学校の校庭に大きな穴があいたら……現代に生きる私たちからしてみれば、安全が保障されているはずの学校の校庭に、数人の大人が落ちてもおかしくないような穴があくということは想像できませんし、想像したくもありませんよね。しかし、今からおよそ 70 年前のある日のこと、実際に桐ケ丘小学校の校庭に大きな穴があく事件が起こりました。では、そのいきさつを追ってみましょう。

【桐ケ丘小学校の校庭にできた大穴】
『桐ケ丘小学校創立４０周年記念誌』

1954 年(昭和 29)6 月 23 日の朝、桐ケ丘小学校の校庭に小さな穴が開いていることを同校教員が発見しました。不思議に思って穴を見ていると、数分もたたないうちに周りの土が崩れていき、ついには直径 10m、深さ 3m ほどの大きな穴になりました。穴を発見した教員と学校関係者で穴の周囲に縄を張る処置をしたため、登校中だった子どもたちも穴の崩落(ほうらく)に巻き込まれることなく、幸いにもけが人は出ませんでした。

一連の出来事は、新聞やラジオなどで取り上げられ大問題となりました。区の土木課が穴の調査を行ったところ、校庭の真下に掘られた防空壕(ぼうくうごう)が原因であったことが判明しました。終戦まで桐ケ丘小学校一帯は陸軍の敷地であり、火薬庫として使用されていました。そのため、空襲(くうしゅう)などの緊急時には火薬庫で作業している兵員が避難できるように、敷地内に防空壕を掘っていたと考えられます。さらに、桐ケ丘小学校の校庭には陸軍が使用していた白いマンホールとそれに繋(つな)がる下水管がそのまま残されていました。それが梅雨の時期であったことから地面がぬかるみ、マンホールが沈下(ちんか)したことによって、地下の下水管に亀裂が入り下水があふれ出しました。つまり、下水が防空壕の穴に浸水(しんすい)して地盤がゆるんだことで、穴があくに至(いた)ったのです。(「朝日新聞」同年６月 26 日付)マンホールを起点にして 250m程の長さの防空壕が２つあり、その２つの防空壕を繋ぐようにしてもう１つの防空壕があったようです。

陥没(かんぼつ)事故から約１か月後、都の教育庁から出された工事費用を使い、防空壕の穴に土を埋め込む工事が始まりました(「読売新聞」同年７月 31 日付)こうして、桐ケ丘小学校の子どもたちは安心して校庭を使えるようになったのでした。

【地域資料専門員　佐久間　乙葉】

北区の部屋
今月の展示

見えない水路を辿る
～北区の暗渠～

■展示期間　　１月６日（火）～２月25日（水）
■展示場所　　「北区の部屋」企画展示コーナー

今回は歴史講演会「見えない水路を辿る～北区の暗渠～」（令和７年１２月２０日令和８年２月２１日開催）の関連展示です。講師の暗渠マニアックス（髙山英男氏・吉村生氏）による、「暗渠って何だろう？」という初心者の方向けの展示です。長めの展示期間となっていますので、ゆっくりお楽しみいただけます。ぜひ、ご覧ください。※講座の申し込みは終了しています。

開催しました！！
歴史講演会
「見えない水路を辿る～北区の暗渠～」
第１回目　入門編

企画・運営：北区図書館活動区民の会

小柳橋　昭和29年（1954）2月　手川文夫氏撮影

去る１２月２０日に中央図書館にて、「暗渠マニアックス」髙山英男氏・吉村生氏のお二人による講演会を開催しました。２回連続講座第１回目の今回は「入門編」として、高山氏からは北区の暗渠についてやその愉しみ方についてのお話がありました。髙山氏は参加者の話を聞くなどしながら、話をすすめていきました。吉村氏は北区にある、「根村用水」や「小柳川」「谷田川」などの新旧の写真を対比しながら、「深堀りの巻」としてお話されました。

参加者からは、「普段、見慣れた場所が出てきて、楽しかった。」「次回も楽しみです。」「街歩きをしてみようと思います。」など多数の感想が寄せられました。様々なメディアでご活躍中のお二人とあってか定員の３倍近いお申し込みがあり、追加で補助席を設けての開催となりました。

第１回目の資料を北区の部屋の展示コーナーに、ご用意します。ご興味のある方はぜひ、お手に取って下さい。　　※なくなり次第、終了となります。

講師の著作の紹介

『暗渠マニアック！』　　吉村生ほか著/柏書房　　書誌番号：B11415894
『暗渠マニアック！』（ちくま文庫）　吉村生ほか著/筑摩書房　書誌番号：B13387774
『暗渠パラダイス！』　　髙山英男ほか著/朝日新聞出版　　書誌番号；B11838337
『まち歩きが楽しくなる水路上観察入門』
　　吉村生ほか著/KADOKAWA　　書誌番号：B11931223
『「暗橋」で楽しむ東京さんぽ』
　　高山英男ほか著/実業之日本社　　書誌番号：B13255232

※上記の本はすべて図書館で借りられます。ぜひ。ご覧ください。

北区の部屋だより

2026年 2月　第198号

刊行物登録番号 6-2-165

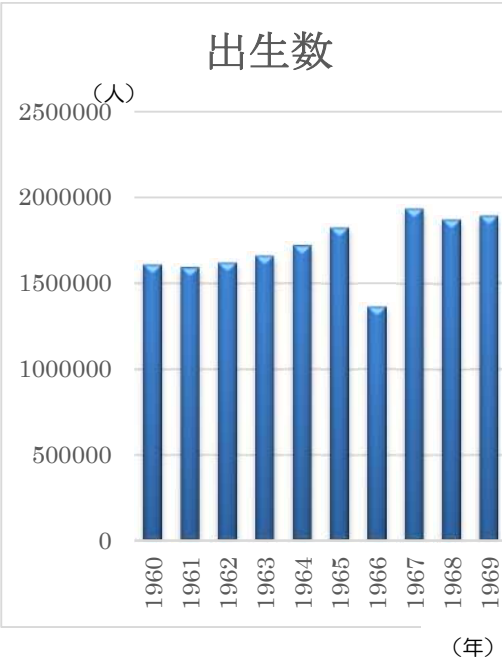
編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台1-2-5　℡03-5993-1125　令和8年 2月発行

ひのえうま 丙午の話

右に示したグラフは 1960 年代の子どもの出生数を示したものですが、1966年（昭和 41）だけ極端に少なくなっていることに気づきます。その理由については、ご存じの方も多いと思いますが、そう、丙午の年だからです。

丙午とは、60 年周期でめぐる干支の1つで43番目に当たります。陰陽五行説で「丙」も「午」も火の性質を持つと解釈されたことから、丙午に生まれた者は運気が強く、特に女性は嫁いだ先の夫を早死にさせる、夫を食い殺す、といった迷信が生まれ、疎外する風潮が強まりました（今野圓輔「丙午」、『日本民俗事典』弘文堂、1972年　601～602頁）。そのため丙午の年の出産を控える人が多くなり、1966年はそれが如実にあらわれる結果となったのです。この年に生まれた方はもちろん、近い年代で生まれ育ってきた方々は、丙午の年の学年だけ学級数が少なかったなど、身近な生活の中で実感したこともあるのではないでしょうか。そして、今年は60年振りに訪れた丙午の年に当たるのです。

井原西鶴『好色五人女』（貞享3 年＜1686＞刊）にも「我は世の人の嫌ひ給ふひのへ午」とあるように、江戸時代には定着していた俗信ですが、科学的に根拠もなく、取り分け女性蔑視を助長するような迷信として、時代の移り変わり、社会の変化とともに否定されていくのは当然の流れで、今となっては世間でもあまり騒いでいないような気がします。



「政府統計の綜合窓口」
人口統計の各年次数値より作成

とはいえ、実際に社会はどういった反応を示すのでしょうか。厚生労働省が前年の出生数を概数として発表するのは 6 月ごろであることから、2026年のデータが発表されるのは2027年6月ということになるでしょうか。まだまだ先のことですが、いったいどんな結果が示されるのか、今から非常に興味があるところです。

【地域資料専門員　保垣　孝幸】

北区の部屋
今月の展示

「見えない水路を辿（たど）る」
～北区の暗渠～

日本化薬KK（昭和26年（1951）
手川文夫氏撮影

■展示期間　１月６日（火）～２月25日（水）
■展示場所　「北区の部屋」企画展示コーナー

先月に引き続き、歴史講演会「見えない水路を辿る～北区の暗渠～」（令和７年１２月２０日　令和８年２月２１日開催）の関連展示です。

※講座の申し込みは終了しています。

公開歴史講座♫

『江戸時代の人々の暮らしと文化
～かつての北区民のライフスタイル～』

江戸時代の北区域で暮らしていた人々はどのような日々を送っていたのか。古文書を通じて当時の人々の生活に迫ります。

【日　　時】３月７日（土）午後２時～4時
【場　　所】中央図書館３階ホール
【講　　師】保垣孝幸　地域資料専門員
【対　　象】中学生以上の方
【定　　員】40名(応募者多数の場合は区内在住、在勤、在学優先)
【申 込 方 法】往復はがき（記入例参照）または下記の申込フォームで２月１０日（火）（必着）まで。
※障害のある方で付添いを必要としている方は、１名のみ可。（申込の際、その旨ご記入ください）
※視覚障害のある方は電話申込可。
※聴覚障害のある方はファクス申込可。
（自宅にファクスがある方のみ。返信もファクスのため）
※会場にはヒアリングループ補聴援助システムが設置されています.

耳マーク

はがき記入例

（返信用表面）	（往信面裏面）
申し込む方の 〒 住所 氏名	講座名 〒　住所 氏名（ふりがな）、 年齢、 電話番号 その他必要事項

申込フォーム

＜申込・問合先＞
〒114-0033 北区十条台 1-2-5　中央図書館図書係
TEL（5993）1125 ／ FAX（5993）1044

開催しました！

親子で探検！赤レンガのひみつ
中央図書館ナイトツアー

１月１１日（日）、北区図書館活動区民の会（区民の会）と図書館主催で、閉館後の夜の図書館を見学する、小学生親子向けのイベントを行いました。今年は、赤レンガ図書館の歴史のお話のほか、区民の会の「子ども部」「ユニバーサル部」「地域資料部」「ドナルド・キーン研究会」が小学生に楽しんでもらえる出し物を用意しました。参加者からは「わらべうたが面白く、もっと知りたいと思った」「ユニバーサル部のお仕事に興味を持てた」「普段は入れないところに入れて色んなところを見られた」「めちゃくちゃ楽しかった」といった感想をいただきました。

ライトを当てて手すきガラスを探しているところです。

北区の部屋だより

2026年 3月　第199号

刊行物登録番号 6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台1-2-5　℡03-5993-1125　令和8年3月発行

おくやみ

平成20年より17年余の長きにわたり、地域資料専門員・地域資料アドバイザーと北区の部屋でご活躍下さいました黒川徳男氏が、令和７年１１月１９日にご逝去されました。

これまでのご尽力に感謝申し上げるとともにご冥福をお祈りいたします。今号では、黒川氏の業績の一端をご紹介いたします。

中央図書館館長及び職員一同

北　区
こぼれ話
第199回

身の回りの歴史資料
―「えっ？！身近にあるよ文化財」展より―

「文化財」とは、美術品や歴史上の人物が残した古文書などだけを指す言葉ではありません。普通の家庭にある引き出しや押し入れの中の古い「紙」や「モノ」も文化財としての価値があるかもしれないのです。文化財としての価値と言っても金銭に換えられるものではなく、私たちに歴史を教えてくれるものとしての価値です。

国の政治や有名人などについては、多くの歴史書に記述があります。一方、地域の歴史を知るためには、住民から言い伝えを聞いたり、その地域に残されている古い「紙」や「モノ」を調べるという方法が用いられます。古い手紙、役所の書類、領収証、回覧板、日記、生活用具、建築材料なども、歴史を語りかけてくれる文化財なのです。

また、区内の風景や人々を写した古い写真や絵葉書は、細かな情報や雰囲気を今に伝えてくれます。しかし、これら身の回りの「紙」や「モノ」は、ありふれたものだからこそ現在に残らないという面があります。つまり、私たちは、日々の生活の中で知らず知らずの間に文化財を捨てているかもしれないのです。

こんなものも貴重な資料－戦争と軍関係施設－

北区域には多くの軍関係施設がありました。しかし、戦前・戦中はそれらの写真撮影は原則として禁じられていました。そのため、軍関係施設の絵葉書は貴重な画像資料です。なお、北区域の多くの地域はアメリカ軍による空襲を受け、たくさんの文化財が焼失してしまいました。さらに、終戦後、行政機関の軍事関係文書は焼却されました。そのため、一般の家庭で保存されてきた戦争・軍事関係の資料は大変に貴重なのです。

（地域資料専門員　黒川　徳男[成稿]）

この「こぼれ話」は、2001年（平成13）9月8日から24日にかけて飛鳥山博物館で開催された北区飛鳥山博物館、北区教育委員会生涯学習部生涯学習推進課文化財係、北区行政資料センター3係（名称･組織は当時）が合同で企画したミニ展示「えっ?!身近にあるよ文化財」展の際、近現代部門を担当した黒川徳男氏のパネル原稿をあらためて文章化したものです。
※副題は「こぼれ話」として成稿するため補記し「こんなものも貴重な資料」については紙幅の関係上「戦争と軍関係施設」部分のみ紹介しています。

2007年（平成19）
行政資料センター
在籍時代

2019年（令和元）
公開歴史講座にて

2024年（令和6）
公開歴史講座にて

北区の部屋
今月の展示

領収証から歴史が見える
～押し入れの中の大切な地域遺産～

■展示期間　２月27日（金）～3月29日（日）
■展示場所　「北区の部屋」企画展示コーナー

今月の展示では、かつて黒川徳男氏が講演会の中で行ったリレートーク「北区の文化財」での講演内容をパネルのかたちで紹介します。その内容は現在でも「北区の部屋」で大事にしていることであり、地域資料に対する考え方を感じていただけるものになっています。

黒川徳男氏と作った本たち

中央図書館では、「北区の部屋」をより身近に感じていただけるよう、黒川徳男氏・保垣孝幸地域資料専門員の執筆により刊行物を作成してきました。

なかでも、小学生にも分かりやすく、そして「ふるさと北区」に親しみと愛着をもってもらいたいと作成した本が『北区の歴史　はじめの一歩』シリーズです。平成２２年から平成２５年にかけて刊行し、その後、より新しい情報を加え読みやすく全面的に見直した「改訂版」を令和２年から刊行してきました。改訂版のラストを飾る「王子西地区編」は４月の刊行・発売に向けて只今準備中です。お手元に届くまで今しばらくお待ちください。

【発売中の刊行物】
・『北区の歴史　はじめの一歩』　改訂版　　各400円
（赤羽東・王子東・滝野川東・浮間・滝野川西・赤羽西・王子西の７地区）
（王子西地区編は４月刊行予定）
・『TOKYO　北区のKITAみち～目で見る北区の歴史～』（日本語版・英語版）　各500円
・『北区こぼれ話』（1～3）　　各200円
※いずれも区内図書館で貸出しています。

黒川徳男氏は、日本近現代史を専門とする歴史研究者で、『北区史』編纂以来、長きにわたって北区の歴史資料保存、活用に尽力してこられました。

一般に、日本近現代史を専門とする場合、どうしても国や政府といった全体の動きに注目が集まり、ともすれば一つ一つの地域資料、いわば、どこにでもあると考えられそうな歴史資料が軽視されがちになります。しかし、黒川氏はそうした一つ一つの資料にも真摯に向き合い、多くの歴史資料を保存するとともに、その価値を紹介されてきました。

また、「北区の部屋」の活動にとどまることなく、北区平和祈念週間や区民大学、様々な講演会やイベントなど、図書館以外の団体、諸機関が行う事業にも積極的に協力され、北区全体にわたる近現代史部門を黒川氏が担ってきたといって過言ではありません。

そんな黒川氏の跡を埋めるのは容易なことではありませんが、「北区の部屋」としてもその意思を継ぎつつ、今後とも北区の歴史資料の保存、そして活用に努力していきたいと考えています。

（地域資料専門員　保垣　孝幸）

2020年（令和２）
公開歴史講座にて

北区の部屋だより

2026年 4月　第200号

刊行物登録番号　7-2-179

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台1-2-5　℡03-5993-1125　令和8年4月発行

北区こぼれ話 第200回

平方の「お獅子さま」

2026年（令和8）も4月になって年度がかわり、何かと慌ただしい日々を送っている区民の方も多いのではないでしょうか。一方で純然たる農村であった頃の北区域を思い起こせば、4月は農作業が暇な頃で、それ故に祭りにはとてもよい時期だったといいます（『北区史民俗編 3』東京都北区、1996年、253頁―以下、特段出典が記していないものは同書より）。そして、この4月のお祭りといえば、4月上旬に行われた「お獅子さま」が思い浮かびます。

「お獅子さま」とは、平方の八枝神社（埼玉県上尾市平方）から獅子頭（「狛狗大神」）を借り受け、それを神輿のようにして村内を巡回させる行事で、北区域の村々でも戦前までは盛んに行われていました。浮間村でこの「お獅子さま」に参加したことのある方の話によると、「お獅子さま」には各家から必ず1人は参加することになっていたので、村を回る時は200人くらいの人がついて歩き、家を一軒ずつまわってみんなで般若心経を唱え、鉦を叩いた、といいます。また、「お獅子さま」の下をくぐると病気にならないという信仰があったことから、家の中に入ると獅子頭を高く持ち上げ、その下を家の人がみんなくぐったのだそうです。

八枝神社の護符
（「旧袋村本橋家文書」）

八枝神社の獅子頭

さて、神輿となるこの獅子頭ですが、その耳には不思議な逸話が各地に残っています。浮間村で、「お獅子さま」を担いでいるうちに、耳がなくなっていることに気づきました。神社へ返しに行った際に謝ったところ、耳だけ先に帰っていて驚いたといいます。また、稲付村では乱暴な扱いに怒った「お獅子さま」が耳を落とし、その耳だけ先に神社へ帰ってしまったという話が伝わっています（『調査報告第3号平方のお獅子さま』東京都北区教育委員会、1986年）。

浮間地域では1949～50年（昭和24～5）頃に行われたのが最後となったそうですが、平成に入ってまた、新たなかたちで行われるようになりました。

現在でも、毎年のように新たなお祭りや行事が誕生していますが、一方で時代の変化の中で行われなくなっていく行事も少なくありません。単純に、それがいいとか、悪いとかいうのではなく、そうした行事を通じて当時の人々の思いに考えを巡らせるのも大切かと思います。

【地域資料専門員　保垣　孝幸】

『北区の部屋だより』200 号目を迎えました！！

おかげさまで、「北区の部屋だより」は 200 号を
迎えることができました！！
200 号を記念して「北区の部屋」についてご紹介します。

「北区の部屋」とは

みんなが知っているようで、知らない「北区の部屋」。「北区」に関する図書に加え、地図や写真、江戸時代の古文書などの地域資料を収集保存活用しています。

資料や展示を通して北区のことをよく知らない人には、わかりやすく、すでに知っている人にはさらに深く知ってもらえる、“北区のことならなんでもわかる”場所です。

「地域資料専門員」とは

北区の歴史の専門家で、主に「北区の部屋」にて地域資料の収集・整理・レファレンスなどを行っています。また、新聞や TV などへの地域資料（写真）の貸出、北区に関する企画展示、歴史に関する講座・講演会なども行っています。北区に関する素朴な疑問から専門的な質問まで、利用者の「なぜ？」にわかりやすくお答えします。こぼれ話にいくつか具体例も載っています。扉の奥の作業室にいますので、お気軽にお尋ねください。

日本近世史
保垣孝幸地域資料専門員

日本近現代史
佐久間乙葉地域資料専門員

「地域資料」とは

北区の図書館では、北区と東京及び東京・埼玉の近隣区市などの行政が発行している資料（行政資料）と、北区と東京・その他北区と関連が深い地域に関して書かれた資料（郷土資料）を収集し、それらをまとめて地域資料と呼んでいます。地域の範囲は自治体によって違いますが、北区立図書館の場合は“北区や東京などの地域について書かれた資料”に特化しています。今度、記念館がつくられる芥川龍之介（あくたがわりゅうのすけ）も北区に住んでいたことから、「北区」にゆかりのある作家の作品として「地域資料」として所蔵しています。1 万円札の顔の渋沢栄一も「北区」にゆかりのある人物として、コーナーを作っています。そのほか、北区が舞台の、内田康夫（うちだやすお）氏の小説「浅見光彦（あさみみつひこ）」シリーズや清野（せいの）とおる氏の漫画『東京都北区赤羽』も大事な「地域資料」のひとつです。

「 年 表 」にしてみました

実際に北区で起こったおもな出来事と『北区の部屋だより』のトピックの一部を年代別にしてみました。なお、『こぼれ話』は、冊子にまとめ、中央図書館から書籍として発行しています。図書館で貸出をしているほか、1 冊 200 円で有償頒布も行っています。一気に読みたい方におすすめです。

※下表の略語　（展）→北区の部屋・今月の展示　　（話）→北区こぼれ話

おもな出来事	『北区の部屋だより』のトピック
江戸	
1720年　徳川吉宗が飛鳥山に桜を植えた 1750年頃～　江戸近郊名所として多くの庶民が王子を訪れた 1780年頃～　六阿弥陀詣が流行した 1858年～　開国後、多くの外国人が王子を訪れた	「お花見対決！上野VS飛鳥山」（展）第９号 「飛鳥山」（展）第81号 「観光スポット飛鳥山の変遷ー江戸名所から新東京名勝まで」（展）第31号 「『名所江戸百景』に描かれた北区」（展）第101号 「外に出よう！！ー六阿弥陀詣の人気のヒミツ」（話）第68回 「外国人から見た幕末の王子」（展）第67号
明治	
1873年　渋沢栄一が抄紙会社を作った 1883年　上野ー熊谷間に鉄道が敷設された 1904年　日露戦争が起こった	「イギリスの外交官アーネスト・サトウをがっかりさせた製紙工場」（話） 第149回 「写真で振り返る北区の鉄道140年」（展）第160号 「王子駅開業140周年」（展）第169号 「からみレンガの謎を追う旅」（話）第47回
大正	
1923年　関東大震災が起こった 1924年　旧岩淵水門が完成した	「美談を語ることの難しさー関東大震災の美談集に描かれた滝野川町」（話）第32回 「関東大震災から100年ー北区域の被災と復興」（展）第167号 「旧岩淵水門と荒川放水路ー通水100年重要文化財指定へ」（展）第179号
昭和	
1941年　太平洋戦争が起こった 1947年　王子区と滝野川区が合併し、北区が成立した 1964年　東京オリンピック開催	「記憶と知識～記憶を補完するなかで～」　（話）第194回 「「北区」はどうして「北区」なの??」（話）第2回 「東京1964→2020＋1」　（展）第144号 「オリンピックをきっかけに北本通りの話」（話）第138回
平成	
1990年　北とぴあ完成 2011年　東日本大震災が起こった	「北とぴあは1位ではなくなっていたー北区のビル高さ比べ」（話） 第191回 「改めて考える「地域資料」」（話）第21回 「震災から一年が経って「東日本大震災」から学ぶ」（話）第33回
令和	
2019年　平成から令和へ改元 2020年　新型コロナウイルスの感染が広がった 2024年　渋沢栄一を肖像とする新一万円札が発行された	「「令和」改元記念?！江戸時代の新年号の話」（話）第118回 「疫病対策で外出を自粛する江戸の人々」（話）第130回 「渋沢栄一と福沢諭吉の少年時代ー祈祷師の嘘を見破る」（話）第179回

北区の部屋・今月の展示　出動！「赤羽工兵隊」！

赤羽根駅構内の炊き出しの様子
明治４３年（1910）梶原利夫氏撮影

■展示期間　４月１日(水)～４月 22 日(水)
■展示場所　「北区の部屋」企画展示コーナー

戦前の赤羽には、第一師団工兵第一大隊と近衛工兵大隊というふたつの工兵隊が置かれており、「赤羽工兵隊」と呼ばれていました。特に、自然災害の復旧活動や赤羽周辺の消防活動などの多様な活動に尽力したことから、周辺住民の信頼も厚かったようです。

そこで、今回は戦前の新聞記事を用いて、工兵隊と地域との関わりの一端を紹介します。

講演会・講座　開催しました！！

歴史講演会　2月21日(土)
「見えない水路を辿る ～北区の暗渠～」第2回目　応用編

「暗渠マニアックス」髙山英男氏・吉村生氏をお招きした連続講座の第２回目「応用編」を開催しました。『北区新聞』の記事や産業、軍事施設や暗渠サイン（銭湯や製餡所、弁財天は川のそばにあることが多いので暗渠の目印になる）の紹介などがありました。「前回紹介した暗渠に実際に行った人いますか？」の問いにほとんどの方が手を挙げ、参加者の関心の高さがよくわかりました。講師から「みなさん「北区暗渠大使（自称）」になってください」とのお声かけに、会場が熱気に包まれました。

公開歴史講座　3月7日(土)
「江戸時代の人々の暮らしと文化 ～かつての北区民のライフスタイル～」

保垣孝幸地域資料専門員による公開歴史講座を行いました。人が生まれてから亡くなるまで、北区にある古文書を引用しながらの解説をしました。江戸時代であっても、出生や亡くなった時、離縁をした時などは、届け出が必要だったとのこと。保垣地域資料専門員の一年ぶりの登壇に、参加者のみなさまから「待っていました。」「ぜひ、今回の続きを行ってほしい。」等の声をいただきました。

古文書入門講座

「古文書って面白い！」開催のお知らせ

北区の旧家に残された江戸時代の古文書をテキストに、くずし字の解読方法や地域の歴史について学習します。

対象：区内在住・在勤・在学、18 歳以上の方　　定員：２０名（抽選）
日時：令和８年５月８日～６月１２日　　場所：中央図書館３階ホール
　　毎週金曜日・全６回　午後２時～４時　　講師：地域資料専門員ほか
申込：右記の申込フォームで４月２８日（火）（必着）まで。
　　往復はがきも可。往復はがきの往信用（裏面）に講座名、〒、住所、氏名、ふりがな、年齢、電話番号
　　返信面（表面）に申込者の住所、氏名を記載。
送付先：〒114-0033　北区十条台 1-2-5　北区立中央図書館図書係

申込フォーム